



2年目迎えた阿蘇プロジェクト

健康寿命延伸へ高校生とタッグ

本学と阿蘇市、阿蘇中央高校が締結した包括連携協定に基づく阿蘇プロジェクトが2年目に入りました。11日（火）には阿蘇市の阿蘇中央高校で健康測定会があり、市の呼び掛けに応じた65歳以上の男女計42人が参加。リハビリテーション学科3専攻の2年生44人と同高校の2年生69人が測定にあたりました。

会場となった同高校の2カ所の体育館では、学生と生徒の混成チームがPT、OT、STの各ブースに分かれ、運動、栄養、社会参加の度合いなど18項目にわたって測定しました。

学生と生徒たちは、5月28日（火）に本学で行われた事前練習会で担当ごとに顔合わせをし、準備をしてきました。2年目を迎えた阿蘇プロジェクトについてプロジェクトリーダーの松原慶吾准教授は「昨年度は舌圧と握力が向上し、フレイル予防に対する重要度の理解や自信の向上が見られ

たので、この取り組みをきっかけとして健康寿命の延伸につなげていきたい。また、高校生と大学生が高齢者の方を測定するという新たな世代間交流の先駆けになっている」と話していました。

測定会は11月にも同一対象者を集めて行います。その間、学生や生徒が電話をかけ、近況を聞いたり予防活動の状況の確認を行ったりします。こうした介入もプロジェクトの大きなポイントで、各測定項目で5カ月間の変化を検証します。

（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）

＝写真左は、被験者に声をかけながらバランスの状態で測定する学生・生徒たち。同中は、社会参加の状況などを聞き取る学生・生徒たち。同右は、協力して舌圧測定をする学生・生徒たち

模擬授業で大学の魅力発信

進学ガイダンスセミナー

大学コンソーシアム熊本が主催する進学ガイダンスセミナーが9日（日）に熊本学園大学で行われ、本学も参加しました。

同セミナーは、熊本県内の高校を対象に、県内にある大学の魅力を知ってもらおうと、毎年実施されています。この日は、地元予備校・壺溪塾による講演会、各大学の模擬授業、進学相談会の3部に分かれて行われました。

メインとなる模擬授業では、本学から医学検査学科の田邊香野講師が臨床検査技師の仕事について、言語聴覚学専攻の大塚裕一教授が理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のリハビリ3職種について講義しました。2講座合わせて89人が参加。高校生たちは、興味深そうに講義に聴き入っていました。（入試・広報課）



模擬授業を受ける高校生たち

パラ“前哨戦” 日本選手が大活躍

リハビリテーション学科理学療法学専攻 久保下 亮准教授



6月4日からフランス・パリで開催された「Roland Garros（全仏オープン）大会」へ車いすテニス競技の日本強化指定選手にトレーナーとして帯同しました。今大会では、女子の強化指定選手1名のウォーミングアップやクーリングダウン、試合・練習前後のコンディショニング調整をサポートしました。

結果は、男子シングルスで小田凱人選手が優勝し連覇を果たしました。また、男子ダブルスでは小田・三木選手組が準優勝、女子ダブルスでは上地・モンジェーン選手組が準優勝と日本人選手の活躍が目立つ大会となりました。私が帯同した女子強化指定選手は、女子ダブルス準決勝で上地・モンジェーン選手組に惜敗してしまいました。

今大会は、テニス界における世界4大会のGrand Slamの大会でした。また、今年度はパリオリンピック大会/パリパラリンピック大会の年ということもあり、パリ大会と同会場であるRoland Garros会場で行われたため、会場全体が言わば前哨戦のような空気感もありました。今大会で得られた経験値をパリ大会でも生かし、各選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようにサポートしていきたいと思っています。更には、このような

トレーナー活動を通して得られた経験値（知識や技術）を本学学生にも伝えていきたいと考えています。



大会前日のDraw Ceremony後に女子強化指定選手と記念壁前で記念撮影する筆者

西日本学生トランポリン選手権Cクラス

男子は古庄さんV 女子の溜浏さん3位



表彰状を手に笑顔の古庄さん（左）と溜浏さんは熊本トランポリンクラブのInstagramより

第2回西日本学生トランポリン競技選手権大会が5月20日（月）、北九州市立総合体育館で開催され、Cクラス男子で古庄大翔さん（リハビリテーション学科理学療法学専攻1年）が優勝、同女子で溜浏菜菜さん（看護学科2年）が3位入賞を果たしました。

古庄さんは、持病のリハビリのためにと理学療法士に勧められたことがきっかけで小学校2年生から競技生活をスタート。一方、溜浏さんは小学校4年生からトランポリンを始めたといいます。2人とも高校時代は一時競技から離れましたが、大学で復帰しました。

トランポリンの魅力について、古庄さんは「10演技15～

17秒程度で終わってしまう競技ですが、半年から1年かけて演技を練習するその過程が面白く、静まりかえった会場で独特の緊張感と向き合えた瞬間に、達成感を感じます」。溜浏さんは「練習によって自分の演技の難度が上がっていくことや、（個人競技なので）自分に結果が返ってくる」と語っていました。

次の大会は8月に滋賀県で開催される全日本インカレ。古庄さんは「自分のベストな演技ができるよう頑張りたい」、溜浏さんも「もっと難度を上げて、より（トランポリンの）真ん中で跳べるように気かけながら跳びたいです」と意気込んでいました。

（入試・広報課）

新任教員、昇任教授など8人が講演

多彩な研究 学長裁量経費の成果報告も

令和6年度新任教員によるお披露目講演会及び昇任教授による講演会、令和5年度大学教育改革推進プログラム（学長裁量経費）成果報告会が4日（火）と6日（木）、3109講義室と3110講義室で開催され、新任教授など8人が自身の研究過程や成果などを発表しました。

医学検査学科の富田文子教授は全国の済生会病院臨床検査室でのヒヤリ・ハットやインシデント、アクシデントの報告事例に基づいた研究を発表。リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の井崎基博教授は自身のこれまでの研究やことばの相談室の活動を伝え、看護学科の三輪富士代教授は小児看護の質向上を目指した前勤務地や関連学会での取り組みを紹介。大学院看護領域の前田ひとみ特任教授は医療の現場での感染予防の成功例を挙げながら、新たな実践に向けた取り組みについて話しました。

医学検査学科の田邊香野講師はアルコールパッチテストを客観的に判定する方法を用いた飲酒行動の啓発、同学科の黒田誠教授は自身のこれまでの研究に基づき、病原体ゲノム情報を熊本県の公衆衛生に役立てる試みについて語りました。また同学科の横山俊朗教授は、フラク

タル次元解析を用いて、多彩ながん細胞の形状を定量（数値）化することで可視化する試みを紹介。看護学科の熊谷有記教授は「看取りのパフレット」を用いた患者と家族の終末期のケアについて話しました。

現場経験も豊富な各講師陣の発表の後は、聴講した教職員との間で盛んな質疑応答が行われました。（入試・広報課）



活発な質疑応答が繰り広げられた「講演会」の会場

益満 美寿 准教授（健康・スポーツ教育研究センター）

福岡県「運動指導者研修会」で講演、実技指導

講義や実技通じ子どもへの指導法説く

9日（日）、福岡県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）で開催された福岡県教育委員会・公益財団法人福岡県スポーツ振興センター主催の「令和6年度体力づくり運動指導者研修会」に講師として招待され、講演および実技指導を行ってきました。福岡県内の幼稚園・保育園、小学校・中学校・高等学校の教諭・運動指導者や総合型地域スポーツクラブの指導者など計30人が参加しました。

「子どもの発達特性や個人差に合わせたスポーツ指導のコツ」をテーマに、午前の部では子どもの感覚特性・感覚統合、コーディネーション能力の発育・学習過程、メンタル特性の見方・支援法について講義を行いました。午後の部では、コーディネーション能力の評価方法の体験、感覚運動遊びプログラムの実演・実技指導、メンタルコンディションの整え方についての演習を行いました。

参加者からは「すぐに実践できる検査法やプログラム・遊びを紹介してもらったのがよかつ

た」「感覚の特性から見ることで、子どもの困り感や理由がわかった」といった評価をいただきました。子ども支援や心理サポートに関するニーズが高まる現状に対して、今後も柔軟に 대응していきたいと思いました。



福岡県内の幼保育園、学校の教諭や運動指導者を前に講義をする筆者

韓国文化研究クラブ



色とりどりのハンボクに身を包み、
国の伝統的な遊びトウホ（投壺）に興
じる韓国文化研究クラブの学生たち

韓国文化研究クラブによる韓国の伝統衣装ハンボク体験会が10日（月）、2504実習室で行われ、11人の学生が色とりどりのハンボクを身にまといました。同クラブ顧問の申敏哲教授が、学生にもっと世界に目を向け、異文化に触れてほしいとの思いから企画したものです。

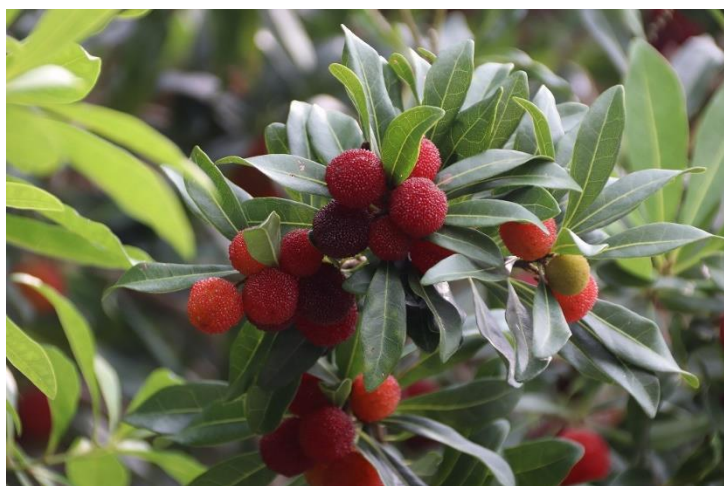
ハンボクは日本でいう着物や浴衣に相当するもので、女性が着るチマ・チョゴリはよく知られていますが、男性用の衣装も含めてハンボク（韓服）と呼ばれます。

この日は、韓国民団から蔡鎮淑さんと趙英海さんを講師に招き、学生たちは実際にハンボクを着用し、韓国の礼儀作法や伝統的な遊びの一部を楽しみました。

初めてハンボクを身にまとった松岡汐夏さん（看護学科1年）は「講師の先生が優しく

着させてくれたので、可愛く着こなせることができました」と嬉しそうに話しました。竹馬和さん（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻1年）は「異文化を学ぶことができてとても楽しかったです」と満足な様子でした。

申教授は「韓国文化に興味を持つ学生は多いですが、実際に触れたことがない学生が多いのも間違いのない。このような体験の場を設けることで、韓国文化の理解が深まると思う。また、この体験が一つのきっかけとなり、韓国文化に興味を持ってくれたら、大邱保健大学との交換研修などを利用して、実際に韓国に足を運んでほしい」と話していました。申教授によると、後期にはさらに多くの伝統遊びを用意する予定で、学生・教職員の参加を呼び掛けています。（入試・広報課）



今が食べごろ？

今週の1枚



1号館西側に植えてあるヤマモモの木が、今年もたくさんの実をつけています。直径2㌢ほど鮮紅色の実は今が食べごろ？ 一口食べると、甘酸っぱい味が口中に広がります。ジャム、シロップ漬け、ヤマモモ酒なども楽しめます。

（撮影：入試・広報課 安部悠介）

インフォメーション

週間行事予定（6月18日～24日）

6/20（木）

高校の進路指導者向け説明会
（14:30～、1300L講義室）